

ミヒャエル・マゾン

1969年ドイツ生まれ。ロンドン王立音楽大学でジョン・アイヴソン（コヴェントガーデンロイヤルオペラハウス）、クリストファー・モワット（BBC交響楽団）各氏に師事する。そのほか、伝説の金管楽器指導者であるアーノルド・ジェイコブ、シカゴ響のチャールズ・ヴァーノン、ニューヨークフィルのジョセフ・アレッシ、スウェーデン人トロンボーンソリストであるクリスチャン・リンドバーグ各氏にも師事。

ミヒャエル・マゾンはこれまで、デンマーク・オールボー響、ドイツ・ハンブルク響、ベルリン放送響で首席奏者を務めた。2014年からはソロ活動をを中心に、室内楽や若い音楽家の指導に打ち込んでいる。

客員奏者としてロンドンフィル、リバプールフィル、ノルウェー・ベルゲンフィル、シンガポール響、ベルリン・ドイツ響、ルクセンブルク国立フィル、ドイツ放送響サールブリュッケン、ケルンオペラ、ストックホルム放送響、ソウルフィル、マレーシアフィルなど世界中で数々のオーケストラで演奏。

ソリストや指導者としても世界各国で幅広く活躍している。ドイツ、日本、韓国、中国、シンガポール、香港、スペイン、スロベニア、アメリカ合衆国、ロシアなどで定期的にソロコンサート、マスタークラスを開催。

2009年オースティン・テキサス大学、2013年テキサス・コロンバス大学で行われた国際トロンボーンフェスティバル（ITA）2015年には香港で行われるアジア最大のトロンボーンフェスティバル、スライダーアジアなどの国際ブラスフェスティバルにも定期的にゲストとして招待される。

ミヒャエル・マゾンはブレーメンの金管楽器メーカー・タイン社のアーティストである。タイン兄弟と共に、新型のテナーとアルトトロンボーンのシリーズを開発し、大成功を収めている。

2015年には2つの重要なCDをリリースしている。一つは彼のソロデビューCD、「トロンボーンのための抒情的な音楽集」、もう一つは新しいジャンルに挑戦した三重奏のCD。ロマン派の音楽を集め、トランペット、トロンボーン、ピアノで演奏した曲集である。